

愛知製鋼株式会社
藤岡高広 社長 殿

3月7日、愛知製鋼が当社を被告として提起したGSRセンサ特許に関する裁判の判決が予定されています。本裁判は、愛知製鋼がすでに2度に亘って特許庁審判官によって退けられた主張を繰り返すものであり、先の刑事無罪判決同様、当社の勝訴を確信しているところです。貴社とは、これまで6件の裁判紛争を行ってきましたが、貴社の6連敗は間違いない状況となっています。なぜ敗訴するのか？何かおかしいと思いませんか。それでも秘密漏洩事件があったと主張されるのでしょうか。

私としては、今回の愛知製鋼による刑事告訴や民事裁判といった一連の裁判攻撃は、愛知製鋼のセンサ事業の責任者の一部の者が、岐阜工場の閉鎖やAMI社の解散にみられるようなMIセンサ事業の失策を糊塗するために、当社からGSRセンサ技術を奪うことで挽回を図ろうとした虚偽告訴事件であると見ています。その意味で、彼らが主導した虚偽告訴による被害者は、当社だけではありません。事情を知らない藤岡社長や愛知製鋼も、被害者と呼べるのではないのでしょうか。なぜ、今回の出鱈目な虚偽告訴がなされたのか、真実は何なのか、藤岡社長に再度、よく考えていただきたい。そうした思いから、これまで6回にわたり、藤岡社長に手紙を差し出してきました。

特許裁判が終結するこの機会に、藤岡社長と私が無条件で直接会って話し合うことを提案します。私としては、私と藤岡氏は互いに被害者の立場にあると思っており、両者が無条件で話し合えば、容易に和解の方向性は見えてくると考えています。藤岡社長には、一日も早く和解をして、この無益な争いを終わらせるとの決断をされることを提案します。提案への回答は3月10日までにいただければ幸いです。

愛知製鋼は、すでに刑事無罪判決や特許庁の審判等で敗北を重ねています。これ以上、巨額の裁判費用をこの紛争につぎ込むことは、愛知製鋼のOBとしても看過できるものではありません。株主各位の賛同を得れる所業とは思いません。そのことも、藤岡社長にはお考えいただきたい。

最後に、当社は、本年1月より知多郡美浜町に新研究所を開設しています。藤岡社長にも、是非、新研究所の見学にお越しいただければとも考えています。

2023年3月2日
マグネデザイン株式会社
代表取締役 本蔵義信